

平成 19 年度第 10 回上田中央地域協議会会議録

日 時 平成 20 年 2 月 4 日 ( 月 ) 午前 10 時から 11 時 50 分

場 所 上田市役所本庁舎 6 階大会議室

出席委員 岡田委員、荻原委員、金子委員、河野委員、栗俣委員、小林委員、白石委員、田口委員、竹内英一委員、竹内弘委員、那須野委員、箱山委員、林委員、前沢委員、三吉委員、山内委員、山極委員

市側出席 金子行政改革推進室長、平田行政改革推進室主任

清水都市計画課長、小相沢都市計画課課長補佐、児玉都市計画課主任

浅野まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課課長補佐

1 開 会 ( 浅野地域振興政策幹 )

2 会長挨拶 ( 林会長 )

本日は、協議事項 2 件、審議事項 1 件といった内容であります。いよいよ中央地域協議会としての意見書の取りまとめの段階でございますので、よろしくお願いたします。

3 会議内容

協議事項

(1) 日帰り温泉施設等の経営見直し ( 料金改定 ) について

( 金子行政改革推進室長 )

大変貴重なお時間を頂戴いたしまして、日帰り温泉施設等の料金改定について、皆様からご意見を頂戴したいと存じます。

- 資料「施設の経営の見直しについて ( 市行財政改革推進委員会答申 )」
- 「日帰り温泉施設等の経営見直し ( 料金改定 ) について ( 案 )」説明 -

( 林会長 )

ありがとうございました。市の温泉施設、プールの赤字を補填する形で、改正したいということでもあります。ご意見ある方はお願いします。

( 白石委員 )

先ほどの説明の中で、施設によっては年間 1,300 万円の赤字があるということだが、今回の改正によりどれくらい改善されるのか。

( 金子行政改革推進室長 )

あくまでも推定数値だが、ささらの湯で約 900 万、ふれあい真田館が約 500 万、うつくしの湯が約 500 万、アクアプラザで約 300 万、クアハウスで約 100 万、合計 2,300 万程度の増収を見込んでいる。

(白石委員)

そうすると、赤字解消というところまではいかないということか。

(金子行政改革推進室長)

すべての赤字を解消するというわけにはいかないが、答申の中にも料金改定の他に、経営努力ということで経費の節減とともに、利用者の増も求められている。料金改定だけで全てを賄うのではなく、両立を図っていきたいと考えている。

(竹内英一委員)

こういう意見聴取は、地域協議会の他に老人クラブなど、利用している皆さんに行う予定はあるのか。あるとすればどういう形で、どのように行うのか。

(金子行政改革推進室長)

個別にご意見をお聞きするのではなく、各地域協議会のご意見を頂戴した上で、市として最終案をまとめ、議会にお諮りして、議会でご判断を頂くということになる。

(竹内英一委員)

年間を通じて大いに利用しておられる方の立場で考えると、どういう反応を示されるのかと思うところである。楽しみにしている温泉から足が遠のいてしまうのではないかと、といった意見が出ることも懸念される。地域協議会に聴きましたという進め方は、あまりいい気がしない。

(金子行政改革推進室長)

あくまでも、条例の中で料金が決まっているものであり、これを改定するには、住民代表である議員の皆さんの意見で決まるということになっている。そのために、議会の議決を経てからの改定であり、地域協議会の意見を聴いただけで、即改定するというものではないことをご理解願いたい。

(小林副会長)

この資料を拝見し、5年間の9施設のデータを精査させていただいた結果、鹿月荘を除く8施設全てが赤字である。これは、一般社会の企業会計上から言えば、絶対許されない数値である。もう一つ、5年間で9施設に、一般財源が12億8千5百万円投入されている。こういう事実を市民も知らないし、ここに集う協議会メンバーも初めて、こういった資料を提供された。やはり実態を公表すべきだと思うし、その上で論議すべきことであると思う。

基本的には、大いに料金を上げなくてはいけないと個人的には思うし、ペイするところまで上げるべきであり、施設によっては、もう廃止すべき施設もあると思う。アクアプラザは、収入に対して、支出が約4倍ある。そういう観点からしても、これを存続すべきか否かということを論議するべきではないかと思う。少し厳しさが足りない気がする

る。

(金子行政改革推進室長)

9つの施設の状態をこのままでは見過ごすことはできないということで、答申を頂いたという経過がある。

現在指定管理者ということで、市の外郭団体、いわゆる振興公社、地域振興事業団が、各施設の経営を行っている。この指定管理の期間は、合併から換算して5年間で切れるが、答申でもあと3年後には、民間事業者でも、競争によって施設経営ができるという方策である。3年後は、指定管理者を公募し、施設の赤字体質がなくなり、サービスが増強するような一番良い提案をいただいた民間事業者があれば、そこに指定管理者を任せ、経営改善を図っていくことが答申にもございます。その上で、まだ経営が良好に進まない場合は、その時点で再度経営のあり方を考えるということが記載されており、それぞれ関係者が努力を重ね、少なくとも一般財源からの投入額が少なくなるようにして、それでも改善されないということであれば、再度検討し、施設の廃止も検討する旨記載されているので、市としても答申に基づいて考えてまいりたい。

(竹内英一委員)

もう少し市民の意見を聞く場面を設けるなり、直接利用者の意見を聞くなりして欲しい。広く意見を集める場を求めていくべきではないかと思う。

(那須野委員)

利用者の年代層はどのようになっているか。

(金子行政改革推進室長)

プールについてはデータがなく、細かい資料はないが、日帰り温泉施設の利用者の約70パーセントが、60歳以上と聞いている。

(那須野委員)

施設がありすぎるという感じもする。1つ、2つ施設を減らし、利用者を集めるようにして、施設の努力で経営改善を図ったらどうかと思う。私の立場から言うと、実際に各施設までの送迎バスを配置していただきたい。施設を運営するには、住民の足も考えたり、主婦の考えとしては、施設の休みをもう少し増やし、光熱費を抑えるといった方法もあると思う。

(前沢委員)

小林副会長の意見に賛成である。もう少しシビアに進めないと、市の財政がやっつけられないと思う。アクアプラザに関して、10月から3月まで土曜日が市内の小中学生が無料となっており、それでも利用者は少ない。利用者がほとんど決まってしまう。子供が無料で、少し賑わっても3月までの話だし、そこまでして市民を呼び込まないと経営していけないということは、開館時間を短縮するとか、シャンプーなどの消耗品を置かない等の経営努力をすべきである。過去の延長線上に未来はないと思うので、大きな改革を進めていただきたい。

(岡田委員)

提案だが、議会だけで意見をというのではなく、利用者からアンケートをとり、その意見を反映させていってはどうか。

(金子行政改革推進室長)

実は各施設ごとにアンケートをとっているが、提出が少なく、もう少し目立つ形で置くなど工夫していきたいと思っている。

(林会長)

色々なご意見が出ましたし、先ほど小林副会長さんから現実に直視した意見も出ました。中央協議会の意見として、この辺でまとめたいと思いますが、よろしく願いしたいと思います。

## (2) 都市計画マスタープラン「地域別構想」の策定について(継続審議)

(清水都市計画課長)

マスタープランの地域別構想ということで、各地域協議会でご審議いただいております。昨年末にある程度たたき台がまとまりまして、1月に入り庁内調整を行ったり、事務局でも何回か検討会等を持ちました。今回素案という形で、各地域協議会へ提出させていただき、最終的に意見をお聴きしていきたいと思っております。

今年度各協議会にお伺いして、協議いただくのは、実質的に今日が最後になると思います。地域別構想は、この中央地域のまちづくりの指針となるようなものになっておりますが、ご意見等いただければと思っております。新年度につきましては、策定案としてまとめていくことになっており、協議会の意見をいただくことがあろうかと思っておりますが、その際は事務局を通してご連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

担当係長から資料の説明をさせていただき、その後ご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いします。

(小相沢都市計画課課長補佐)

それでは、資料の概略をご説明申し上げます。

- 資料「上田中央地域 地域別構想(案)」説明 -

(林会長)

すでに何回か意見を出したもののまとめということですが、皆さんから出た意見も相当入っているなというような感じを受けています。

一点お願いしたい。町の名称が違っている部分があるので、訂正願いたい。例えば、下川原町は、「下川原柳町」で、鍛冶町、房山、紺屋町などは「上」、「下」があるので、

できれば記載していただきたい。

(竹内英一委員)

神川地区の立場で考えた時、神川に居住している者として、この中央地域の将来をどのように描くのか、わくわくするような将来像が描けるのかについて、いつも考え、意見を出してきた。将来像の中で、中央地域に神川地区を含めた場合、神川地区はどうなってしまうのかといった懸念がある。

神川地域は、実際には一万人の住民を擁しており、神川小学校を中心に村、農業、水利を中心に集まって文化が形成され、合併前から神川地域ということで、絆の中で構成された地域である。こうした地域が中央地域と一つになって、将来像を描こうという時に、私共の将来について想いが描けないと強く感じている。将来中央地域と神川がどんなふうに融合し、地域づくりを進めるのか、もっと色々な立場で意見を出し合い、議論していかなければならないと思っている。これまで、神川は一つの独立した地域ということを前提に地域づくりを進めてきていることを考えた時、「市の玄関口、集積された都市機能、風格ある風景」という中で、神川はどういう位置づけになるのか。例えば、地域の現況の部分で「地域東部には農地が広がり」というのは、どこのことを言っているのか。

(林会長)

神川地区を「中央」と括ってしまう点について、事務局から何かありますか。

(清水都市計画課長)

中央地域協議会が設置される時から、そういった課題はあったと思います。隣接していることと、農業的なエリアがあることは間違いないが、市全体から見ると、農業ゾーンというはっきりした位置づけは難しいと思う。神川地区は、昔から18号が東から延びてきており、バイパス問題も主要課題になっており、更に沿線については都市化が進んでおり、そういった状況をいい形で、土地利用のルール化、用途地域に指定していくということが大きな課題になるかと思う。中央地域という括りの中で進めていくと、歴史などは中央地域と同じものになるかなという感はあり、必ずしもこれだというのは難しいが、もう少し加える必要があれば、ご意見をいただき、基本目標の中に加えていきたい。

(竹内英一委員)

長い間神川の地域づくりを進めてきた立場からすると、神川地区の特性はやはり中心市街地に近い住宅地区であり、ここから市の中心に勤めている方もいるし、ある意味周辺近郊農業地帯であり、基本的に商店を中心とし、城下町として栄えてきたという中心市街地の経過とは、少し違う歴史的経過の中で生まれてきた地域だと思っている。神川と中央地域の融合は、心配する部分がある。「中央」という冠がつけば、農業問題はなかなか言いづらい点はあるかと思うが、そこに長く住んでいる立場とすれば、公の場の中で深まらないということであれば、中央地域協議会そのものについて構成を見直しても

らいたいと思う。融合そのものが課題だと思っているので、やはり将来像については納得できるものが欲しい。

(三吉委員)

竹内委員のおっしゃったことに同感である。地域の状況の中で、地域東部とはどの辺を指すのか。するとやはり自ずと神川地区は重要な地区になってくる。もう一つ農業という観点から、中心市街地の活性化という話をする中で、商業と農業というものが連携していくべきであり、農業の活性化無くして、商業の活性化はありえない。この二つが連携して成り立って行くのが、この上田市の特色だと思っていたので、やはり農業をとり入れた商業の活性化は、この中央協議会にとって重要な課題と思う。この地域協議会で協議すべき課題は、正しくこういったことを進めていくことが一番大事なことだと思っている。その辺を今後行政の方でも参考にして頂きたい。

(清水都市計画課長)

まだ素案の手前であり、今貴重なご意見をいただいたので、農政サイドとも確認させていただき検討していきたい。

将来像の最初にある「市の玄関口」という表現についても、拠点的な狭い範囲を指すことになるので、省く方向で検討していく。

(白石委員)

私も神川の出身であり、神川も中央地域だという立場で発言をしてきた。ただ論議の中身については、やはり旧上田市内、いわゆる神川を抜いたところの論議が大きいという認識を持っていた。この中央地域協議会に関しては、神川も含めたところが中央地域だということを認識していただければ、半分以上は解決できると思う。あえて神川を突出させる必要はないが、ある程度全体協議の中で文言等十分考えていただきたい。いずれにしても、上田市の中心であることに変わりはなく、生活環境の向上も神川も一緒に考えていって欲しいという立場でお願いしたい。

(清水都市計画課長)

白石委員さんには、神川について前回厳しいご指摘を頂き、大屋駅周辺、国分寺周辺について、いくつか加えさせていただいたという経過があります。

(岡田委員)

私も神川地区であり、竹内委員の意見に同感である。神川には、神川の公民館があり、公民館地域で推進していくとすれば、次期は例えば東部地域協議会として立ち上げるとか、今後地方分権を進めるという中で、住民の意識の向上などを考えた中で、そういうことも考慮に入れていただけるとありがたいと思う。

(竹内英一委員)

バイパスを大屋地区までという表現は、市としてどうか。気持ちはわかるが、上田市は、大屋地区まで整備すればいいという捉え方もできるがどうか。

(清水都市計画課長)

先程会長からご指摘のありましたように、全員で読むとか、細かい表現は再度整理していかなければいけないと思っている。まだ修正段階にあり、ご意見等いただければと思う。

( 林会長 )

地域別構想(案)につきましては、もう一度考えていただけるということですので、よろしくをお願いします。

休憩

#### 審議事項

(1) 「地域まちづくり方針」に基づく意見書修正案についての審議

( 林会長 )

それでは審議事項に入りたいと思います。事務局からお願いします。

( 小宮山まちづくり協働課課長補佐 )

それでは意見書の修正案の修正箇所につきまして、ご説明申し上げます。

- 意見書(修正案)

「中心市街地の賑わいの創出と青少年に希望と誇りを与える、『ふるさと上田先人館』の創設と観光事業への利活用について」 説明 -

( 林会長 )

ありがとうございました。只今事務局から表現等について、修正部分にアンダーラインが引いてございますが、この点について、このように修正してはどうかという内容でございます。ご意見ございますか。

( 那須野委員 )

ここまでの拾い挙げてきた人物については、何か基準をもって上田市の先人として挙げられているのか。

( 小林副会長 )

基本的には全国的にある程度知名度のある方、あるいは当市の発展に寄与された方という二本立てで考え、事務局と協議したとりあえずの候補である。前回の事例でお出した金沢市でも、8名しか載せていない。これだけの人数の中で、誰をどうだ、ということは我々だけでは決められない。やはり次の段階として、絞り込んでいかなければいけないと思う。

( 那須野委員 )

上田の盲人用点字図書館を最初に作り上げた「金子直躬」という方を取り上げたいと思う。お医者様であり、昔田町の浄念寺に盲人の按摩さん学校というものを作った方で、小河滋次郎の弟にあたる。障害者の立場としては、この功績も載せていただいたらと思ったので、検討の余地があったらお願いしたい。

(浅野地域振興政策幹)

今後そのような意見がたくさん出ると思うが、まず先人館ができるかどうかも未定であり、いずれにしても絞らなければ、展示ができないと思うので、それは多分次の段階の検討課題となると思われます。

(山極委員)

中心市街地の賑わいの創出の(2)提言の中に「民間事業者を支援する立場である商工会議所が」とあるが、特定の団体を指定して表記することについては、若干すり合わせが必要かと思う。特にこの地域協議会の立場が、住民の自治と行政との協働ということであり、特定の経済団体を指定するのはどうなのかなと思う。

(1)の概要の中で、「生鮮食料品等の不足が日常生活において支障をきたしている状況にあります。」という部分については、どうしても商業だけに賑わいの創出という点で目が向いてしまうが、街中居住している方々の良好な生活環境の提供というところに的を当てていただき、すごく表記は良かったなと評価しているが、「公共公益施設など多様な機能が集積することにより、市街地に一つの新たな集客核が生まれることは確実です。」と記載されており、商業にターゲットが戻ってしまう印象を持つが、公共公益施設等を整備することとこの「集客」という言葉が相対するものかどうかなということで、若干の違和感がある。

(浅野地域振興政策幹)

1点目のご指摘につきましては、おっしゃるとおり表現を変えていきたいと思う。「商工団体等」というような表現にしたいと思います。

(山極委員)

「公共公益施設など多様な機能が集積すること」という文言は、「既存商店街と連携」の部分につなげるために、街中に公共施設ができれば、集客が図れるだろうという意味合いなのか。「JT跡地に商業や住宅、公共公益施設など多様な機能が集積する」ということは、街を訪れる方が増えるという意味合いか。

(林会長)

これは商業だけではなく、総合文化会館的なものも入る計画があることから「集客核」としたものである。

(浅野地域振興政策幹)

ご審議いただきましてありがとうございます。ただ今ご意見を頂いた内容を含め、再度修正し郵送いたします。特に意見がなければ、ご了解いただいたということで、2月の中旬には市長へお出しするという段取りになります。



受けた行政の方は、該当する部局にこの提言を回します。その回答を 3 月中にいただくという段取りになりますが、よろしく願いいたします。

#### 4 その他

( 林会長 )

これで今日予定した議題は終わりますが、何かございますか。

( 三吉委員 )

今日の最初の協議事項の日帰り温泉施設の件ですが、この資料をいただいて間もないわけですが。答申があったのも昨年 12 月末ということで、これは上田市の行財政改革推進委員の皆さんが努力されて、各種の行政改革について答申されていると思いますが、その一つとして、今日日帰り温泉施設経営の見直しについて説明を受けたわけです。この施設についての市長への答申書は、非常に尊重すべきものではないかと私は思っています。そういうものが出てきて、ここで検討してくださいというふうに私は理解したが、どうもすっきりしない。どうして急に協議会にこういうものを出してきて、3 月の議会に出すので意見を求めると言っても、ただ形式的に各地域協議会に説明して、説明したよということの一つの証拠を作るとしか私には考えられない。こういう様なことは、これからは十分事務局でも調整していただき、もう少し考えていただきたいと思っています。よろしく願いします。

( 小林副会長 )

若干関連しますが、配布された資料に「上田市地域振興事業団」、「丸子地域振興公社」とありますが、これは財団法人と社団法人なんですね。果たして財団法人と社団法人を解説できる人がこの中にいるのか、市の職員で的確に把握して、適切に説明しているのか疑問に思いましたので、これも次回への宿題としてお願いします。

( 浅野地域振興政策幹 )

今回は最終回になりますが、日程は 3 月の 13 日(木)か 14 日(金)で、会場の都合を確認したうえで、ご連絡申し上げます。

( 林会長 )

長時間にわたりまして、貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。先ほど事務局から話のありましたように、資料を郵送していただきますが、ご意見がありましたらお願いいたします。次回は、3 月の 13 日か 14 日で会場の空きを見ながらということですので、よろしく願い致します。本日はどうもご苦労様でした。